

平成28年度 城南学園中学校・高等学校 学校評価のまとめ

1 自己評価

(1) 組織 学校評価委員会 (校長、副校長、中学校教頭、事務局長、学校評価委員会担当教諭)

(2) 開催 平成29年3月6日 (月)

(3) 評価のために使用した資料

① 平成28年度学校教育診断の結果 (概要は資料1)

・実施：平成28年12月

・対象：中学校・高等学校の全生徒、在校生の全保護者、全常勤教員

② 生徒による授業評価の結果

・第1回：平成28年6月～7月

・第2回：平成28年12月

③ その他

・「平成28年度 教育の基本方針と取り組みの重点」(資料2)、校内各組織の総括(目標の達成状況)、生徒収容状況、進路決定状況、出席統計、部活動入部状況・活動実績等

(4) 内容

① 上記資料をもとに、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」(学校教育目標)について自己評価を行った。(下表)

② 自己評価に基づき学校関係者評価委員会の資料を作成した。

(5) 自己評価の結果 (3月末時点で修正)

目標と取り組みの重点 (P)	取り組みの状況 (D)	自己評価 (C)
<b>1 学校の全体像に関わって</b>		
①建学の精神を踏まえ、コース・学年・教科等で「育てたい生徒像」「育みたい生徒像」を共有し、個々の取り組みの目的と目標を明確にする。	①中学校では『10×10 (テン・バイ・テン) プラン』に「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」が明記されている。それに基づいた取り組みを進めた。高校では各コースの当初目標に「生徒に育みたい力」を記載した。	①前進した
②幼児教育・福祉コースの教育活動の充実を図るとともに、4年制大学進学希望者への指導計画を実施する。	②従来の取り組みに加え、1年生を対象に幼稚園・保育園での体験活動を実施。また、短大の協力を得て「保育と福祉の学習発表会」を実施した。 3年生の有志が「手作り雑巾」を作成し、ボランティア活動でお世話になった幼稚園・保育園に配付した。 1年次から4年制進学希望者を集めたクラスを編成して指導した。	②前進した
③看護特進コースの教育課程と指導計画の円滑な実施に努める。	③コースガイダンス、看護講話、一日看護師体験、病院での見学実習、医療系大学オープンキャンパス参加等を実施した。	③前進した
④新しい学校運営組織の円滑な実施を図り、組織改編の趣旨の実現に努める。	④いくつかの課題が生じたため、未来委員会で検証して対策を立て、来年度から実施することにした。	④前進できず

<p><b>2 学力の向上と進路実現100%をめざす</b> (評価指標: 模試・実力診断テストの結果向上、進路実現率前年度以上)</p> <p>①学習指導要領の趣旨を踏まえ言語活動の充実など授業の改革を進める。そのため相互の授業参観や研究授業などを組織的に行うとともに、教科会議を活用して教科の研究活動を活性化させる。</p> <p>②新大学入試制度を視野に入れた授業研究を進める。また、ICT教育のあり方について検討を進めるとともに、電子黒板の有効活用を図る。</p> <p>③生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を充実させる。そのため学園内外の大学や関係機関・施設等との連携を深める。</p> <p>④基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。進学スタンダードコースでは「学び直し」と「ビジネス手帳」を有効に活用する。</p> <p>⑤3年間の指導計画に基づき、学年・コースと連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。</p> <p>⑥国公立大学と関関同立の合格者15名(実人数)以上をめざす。また、総合保育大への進学者7名以上、城南短大への進学者100名をめざす。</p>	<p><b>模試・実力診断テストの結果、特に中学校と高校の特進アドバンス・教育特進コース1年で向上が見られた。結果を検討会で分析し、各教科にフィードバックして対策を求めた。</b></p> <p><b>進路実現率は95%(昨年度比+3ポイント)</b></p> <p>①相互の授業参観と研究授業を実施。教科会議の活用は十分にはできなかった。新任教員には指導教員を配置して研修を実施した。英語科から4技能に関する取り組みの報告を受けた。</p> <p>②プロジェクトチームで検討を進め、未来委員会と職員会議に今後の方向性も含めて結果を報告した。</p> <p>③中学校では『10×10(テン・バイ・テン)プラン』の取り組みを進めた。高校では各コースで新たな体験活動(幼稚園・保育園実習など)と学習成果の発表会(保育と福祉の学習発表会など)を開催した。</p> <p>④分割授業(中学校)や放課後の個別指導を実施。「学び直し」は、2年次の教科を数学・英語から国語・英語に変更することにした。「ビジネス手帳」の活用モデルを周知するため「校内手帳甲子園」を開催した。</p> <p>⑤指導計画に基づき予定どおり実施した。</p> <p>⑥国公立大学と関関同立等に8名(実数)が合格。総合保育大学には5名、城南短大へは79名が進学した。</p>	<p><b>進路実現率は達成できず</b></p> <p>①前進できず</p> <p>②前進した(ICT教育については達成)</p> <p>③前進した</p> <p>④前進した</p> <p>⑤前進した</p> <p>⑥前進できず</p>
<p><b>3 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底</b> (評価指標: 学校教育診断の結果が80%以上)</p> <p>①自ら学ぶ姿勢を育成し、よりよい学習環境を創るため、読書指導の徹底と「深化」を図る。</p> <p>②社会情勢の変化を踏まえ、生徒の自主性、自律性を伸ばす観点から校則と指導のあり方を見直す。</p> <p>③挨拶、授業規律、服装、欠席、遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席、遅刻と転退学者の減少に努める。</p>	<p><b>学校教育診断の結果</b> <b>「校則を守り、規則正しく生活している」</b> <b>中学生71%、高校生66%、教員58%</b> <b>中学生保護者84%、高校生保護者81%</b></p> <p>①中学校と特進系コースで、年5回の読書週間にビブリオバトルを実施した。来年度は全コースで実施の予定。</p> <p>②マフラーとソックス、スマートフォンと携帯に関する校則の見直しを行い、29年4月から実施する。</p> <p>③年間を通じて指導するとともに、特別指導週間を設定した。また、保護者とも緊密に連携した。欠席・遅刻は中学校で減少、高校で増加した。高校の転退学率は減少した。</p>	<p><b>中学生・高校生・教員のいずれも前進保護者は達成</b></p> <p>①前進した</p> <p>②達成した</p> <p>③前進した</p>

<p>④学校行事を生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。また、自治会活動、部活動、ボランティア活動など生徒の自主的活動を促進する。特に部活動の参加率の向上に努める。</p>	<p>④中学校の空手道部と硬式テニス部が全国大会で優勝した。高校の硬式テニス部と体操部がインターハイ、陸上部とハンドボール部が近畿大会、中学校のバレーボール部も近畿大会に出場するなど活躍した。高校1年の部活動加入率が50%を超えた。</p> <p>自治会役員を中心に挨拶運動など自主的な活動が行われた。</p> <p>部活動公式戦に伴う公欠者を減らすため、土・日曜日に開催していた文化祭を、金・土曜日に開催した。</p>	<p>④前進した</p>
<p><b>4 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上</b> (評価指標：学校教育診断の結果が80%以上)</p> <p>①分かる授業、魅力ある授業づくりに努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。</p> <p>②すべての教育活動を通じて人権に関わる教育を充実するとともに、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止等に努める。また、面談を計画的に実施するなど相談体制を充実する。</p>	<p><b>学校教育診断の結果</b> <b>「授業内容に満足している」</b> 中学生 84%、高校生 63% <b>「入学してよかった」「入学させてよかった」</b> 中学生 84%、高校生 65% 中学生保護者 90%、高校生保護者 89%</p> <p>①学校教育診断では「授業の満足度」は向上したが、2回の授業評価アンケートから、いくつか課題が明らかになった。</p> <p>②学年ごとの年間指導計画に基づいて実施した。また、配慮が必要な生徒については個別に指導した。</p> <p>「いじめに関するアンケート」を実施し、結果をもとに面談を行い、「いじめ防止対策委員会」を随時開催した。また別途、年3回の面談を計画的に実施した。</p>	<p><b>中学生と保護者は達成</b> <b>高校生は達成できなかった</b></p> <p>①前進した</p> <p>②前進した</p>
<p><b>5 中学校 50 名、高等学校 280 名の定員充足</b></p> <p>①すべての教育活動を募集対策の視点から点検するとともに、個々の教育活動、とりわけ中学校の「10×10プラン」や各コースの取り組みの積極的な広報に努める。</p> <p>②中学生の内部進学率の向上を図る取り組みを強化する。</p> <p>③高校各コースの「求める生徒像」を打ち出す。</p> <p>④入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。</p>	<p><b>中学校 32 名、高校 251 名が入学予定</b></p> <p>①校則の見直し、特進系コース「アカデメイア(課題研究)」発表会・中学校総合学習発表会の公開、各コース独自の広報用リーフレット・チラシの作成等を行った。</p> <p>②32名中25名(78%)が内部進学(昨年度57%)</p> <p>③各コースには将来の進路との関連で「求める生徒像」が既にあり、それ以上の議論は進まなかった。</p> <p>④入試対策部・広報室が中心となって中学校・塾訪問を行い、外部相談会に対応した。校内での募集イベントは広報活動推進委員会が企画し、全教職員の協力を得て実施した。</p>	<p><b>中学校・高校とも達成できず</b></p> <p>①前進した</p> <p>②概ね達成</p> <p>③全く取組めず</p> <p>④前進した</p>

## 2 学校関係者評価

### (1) 組織 学校関係者評価委員会

構成（敬称略）

大阪城南女子短期大学長・西川仁志（委員長）

城南学園小学校長・山北浩之

保護者会代表・堀井真由美

同窓会代表・新里陽子

地域代表・西田登志恵

### (2) 開催 平成29年3月16日（木）

### (3) 評価のために使用した資料

自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料、学校関係者評価委員会設置要綱

### (4) 内容

- ① 校長及び副校長、中学校教頭から、「平成28年度 教育の基本方針と取り組みの重点」に沿って、自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
- ② 協議の内容を事務局で取りまとめた。（主な協議の内容は資料3）

## 3 今後の改善方策（A）

### 1 学校教育目標のマネジメントサイクルの推進

- 自己評価及び学校関係者評価の結果等をもとに、新年度の学校教育目標である「教育の基本方針と取り組みの重点」を策定し、年度当初に教職員に周知する。
- 学校教育目標を踏まえ、校内各組織が年度目標と実施計画を作成して取り組みを進める。
- 10月末にその進捗状況、2月末に達成状況の報告を求め、それを受けて年度末に学校教育目標の自己評価を行う。このマネジメントサイクルを効果的に運用することにより、高いレベルでの目標の達成をめざす。

### 2 主要教育課題に対する取り組み

#### (1) 学校の全体（未来）像に関わって

- ①建学の精神を踏まえ、校内各組織が「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、目的と目標を明確にして個々の取り組みの充実に努める。
- ②幼児教育・福祉コースの全生徒による学習成果発表会を新たに開催するなど、さらに教育活動の充実にを図る。また、幼児教育・福祉コース室を整備し、効果的な活用を図る。
- ③看護特進コースの体験的な学びの機会を一層充実するとともに、受験に必要な学力の向上に努める。
- ④学校運営組織について今後も改善を図りながら、所期の目的が達成できるよう努める。

#### (2) 学力の向上と進路実現100%をめざす

- ①言語活動の充実など授業の改革を進めるため、研究授業や相互の授業参観を組織的に行う。また、教科の研究活動を活性化する。新たにEnglish Room（仮称）を設置し効果的な活用を図る。
- ②新大学入試制度を視野に入れた授業研究の成果を具体化する。また、次期学習指導要領の研究を進める。ICTを活用した教育を推進するため、その環境整備と取り組みを計画的に進めるとともに、既存の設備・機器の有効活用を図る。
- ③幼児教育・福祉コースの全生徒による学習成果発表会など、生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を一層充実する。
- ④引き続き一人ひとりに応じた丁寧な指導に努める。
- ⑤進路指導部と学年、コースが一層緊密に連携して、1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- ⑥引き続き数値目標を掲げて学力向上に取り組む。

- (3) 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底
- ①読書週間に全校でビブリオバトルを実施し、朝の読書活動の充実と活性化を図る。
  - ②校則改正の主旨を周知し、新しい校則の定着を図る。
  - ③引き続き、基本的な生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る指導を組織的に進め、特に欠席、遅刻と転退学者の減少に努める。
  - ④学校行事における生徒の主体的取り組みを促進する。また、自治会活動や部活動、ボランティア活動など、生徒の自主的な活動を促進する。特に部活動の参加率の一層の向上に努める。
- (4) 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上
- ①授業評価アンケートの結果も活用して、分かる授業、魅力ある授業づくりに努め、生徒の「授業満足度」の向上に努める。
  - ②すべての教育活動を通じて人権教育を一層充実する。また「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努める。面談を計画的に実施するなど生徒の状況把握に努めるとともに、保護者への情報提供、保護者との緊密な連携に努める。
- (5) 中学校及び高等学校の定員充足
- ①中学校および高校各コースの取り組みの積極的な広報を推進するとともに、学習成果の発表の場の公開に努める。
  - ②中学生の内部進学率の一層の向上を図る。
  - ③入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。

## 4 参考資料

### (資料1)

#### 平成28年度 学校教育診断票の結果について

城南未来委員会

昨年12月に実施いたしました「学校教育診断票」の結果について概略を報告いたします。

#### 【データの回収】

生徒744名、保護者691名のデータを回収しました。特に保護者の皆様には90%以上の回答をいただき、より信頼度の高いデータにすることができました。ご協力ありがとうございました。

#### 【保護者データ】

18問全ての設問で、肯定意見（「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた意見、以下同様）が、高校では70%、中学校では80%を超え、全体として高い評価をいただけたと感じています。特に「学習の評価は適切である」「学校の施設・設備は、学習環境の面で満足できる」では中学・高校とも90%以上の肯定意見をいただきました。最も気になる設問「入学させて良かった」でも、90%近い肯定意見をいただきました。

高い評価をいただけた中、「いじめを許さない、いじめがあったとき相談しやすい雰囲気がある」（高校75%）が、肯定意見のやや少ない設問でした。

#### 【生徒データ】

高校では学年やコースによって評価にばらつきがあります。全体としては、「本校の部活動は活発である」の77%をはじめ、「学習の評価は適切である」「学校は進路に関する情報を適切に提供するなど、生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」「自分のクラスは楽しい」等で、肯定意見が70%を超えています。

中学校では、ほぼすべての設問で肯定意見が80%を越えました。中でも、「本校には、他校と異なる城南学園らしい特色や良さがある」「人権（命の大切さなど）について学ぶ機会が多い」「自分のクラスは楽しい」「本校の生徒自治会活動は活発である」「本校の部活動は活発である」が90%を超える肯定意見でした。

評価が高くない設問もいくつかあり、高校では「生徒指導の方針は適切である」（53%）、中学校では「校

則を守り規律正しく生活している」(71%)が、それぞれ最も肯定意見の少ない設問でした。

今回の「学校教育診断票」で得られた結果を、学年・校務分掌・コースなど各部門で慎重に検討し、また過年度のデータを照合しながら、生徒の動向把握に全教員で努めて参ります。そして、より高い信頼を得られる教育活動の推進と、教育環境の整備に力を注いで参りたいと思っております。

保護者の皆様におかれましては、本校のこの姿勢にご理解をいただき、今後も変わらぬご協力をお願いいたします。

(平成29年2月発行の校報『城南第73号』より転載)

## (資料2)

### 平成28年度 教育の基本方針と取り組みの重点

平成28年4月5日

学 校 長

#### I はじめに

学校教育の目標は、生徒が将来、社会人として自らの使命を果たし、自らの幸福を実現できるよう、その基盤となる学力と健康な心身、さらには真に自立的な態度を育成するところにある。本校の建学の精神である「自主自律」「清和気品」は、これらを達成するための具体的な指針である。われわれの教育活動が成果を上げるためには、本校の特色を鮮明にして全教職員が同じ教育目標を共有することが重要である。よって本年度の基本方針と取り組みの重点を次のとおり策定する。

#### II 基本方針と目標

1. 将来、一人ひとりが社会的使命を果たせる生徒の育成を図る。そのため、中学校においては「10×10プラン」を一層推進する。高校においては6コースの特性を生かした教育を実践し、学力の向上と進路実現100%をめざす。
2. 生徒にとって生涯の基軸となる、よき生活習慣を身につけさせる。そのため「自主自律」の態度を育成するとともに、「清和気品」のマナーを徹底させる。
3. 教職員が相互に高め合う職場づくりを進め、授業の充実改善に努める。また、明るい学校づくりに取り組み、生徒・保護者の「学校満足度」を向上させる。
4. 広報・募集活動を再構築し、中学校及び高等学校の定員充足をめざす。

#### III 取り組みの重点

##### 1. 学校の全体像に関わって

- (1) 建学の精神を踏まえ、コース、分掌、学年、教科等で「育てたい生徒像」「生徒に育みたい力」を共有し、個々の取り組みの目的と目標を明確にする。
- (2) 幼児教育・福祉コースの教育活動の充実を図るとともに、4年制進学希望者への指導計画を実施する。
- (3) 看護特進コースの教育課程と指導計画の円滑な実施に努める。
- (4) 新しい学校運営組織の円滑な実施を図り、組織改編の趣旨の実現に努める。

##### 2. 学力の向上と進路実現100%

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ言語活動の充実など授業の改革を進める。そのため相互の授業参観や研究授業などを組織的に行うとともに、教科会議を活用して教科の研究活動を活性化する。
- (2) 新大学入試制度を視野に入れた授業研究を進める。また、ICT教育のあり方について検討を進めるとともに、電子黒板の有効活用を図る。
- (3) 生徒の体験的な学びの機会と学習成果の発表の場を充実する。そのため学園内外の大学や関係機関・施設等との連携を深める。
- (4) 基礎学力の向上と家庭での学習習慣の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導に努める。進学スタンダードコースでは「学び直し」と「ビジネス手帳」を有効に活用する。
- (5) 3年間の指導計画に基づき、学年・コースと連携して1年次から生徒の進路意識の醸成に努める。
- (6) 国公立大学と関関同立の合格者15名(実人数)以上をめざす。また、総合保育大への進学者7名以上、城南短大への進学者100名をめざす。

### 3. 「自主自律」の態度の育成と「清和気品」のマナーの徹底

- (1) 自ら学ぶ姿勢を育成し、よりよい学習環境を創るため、読書指導の徹底と「深化」を図る。
- (2) 社会情勢の変化を踏まえ、生徒の自主性、自律性を伸ばす観点から校則と指導のあり方を見直す。
- (3) 挨拶、授業規律、服装、欠席、遅刻、交通マナー、ネットマナー等の指導を組織的に進め、基本的生活習慣と社会人としてのマナーの確立を図る。特に欠席、遅刻と転退学者の減少に努める。
- (4) 学校行事を生徒が主体的に取り組めるよう工夫する。また、自治会活動、部活動、ボランティア活動など生徒の自主的活動を促進する。特に部活動の参加率の向上に努める。

### 4. 明るい学校づくりと生徒・保護者の「学校満足度」の向上

- (1) 分かる授業、魅力ある授業づくりに努め、生徒の「授業満足度」の向上を図る。
- (2) すべての教育活動を通じて人権に関わる教育を充実するとともに、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止等に努める。また、面談を計画的に実施するなど相談体制を充実する。

### 5. 中学校及び高等学校の定員充足

- (1) すべての教育活動を募集対策の視点から点検するとともに、個々の教育活動、とりわけ中学校の「10×10プラン」や各コースの取り組みの積極的な広報に努める。
- (2) 中学生の内部進学率の向上を図る取り組みを強化する。
- (3) 高校各コースの「求める生徒像」を打ち出す。
- (4) 入試対策部・広報室及び広報活動推進委員会を中心に、全教職員による広報活動を一層推進する。

#### (資料3)

#### 平成28年度 学校関係者評価委員会 主な協議内容

まず、外部の目から見ても、生徒の様子が落ち着いてきているというご意見をいただいた。自律性が育ってきたことの表れかと思われる。この状況を踏まえた校則の見直しも、生徒の自律性に委ねるという点で賛同が得られた。また、生徒のあいさつや言葉遣いなども徐々に改善されつつあるが、今後も根気強く指導を続けていく必要がある。

保護者の立場として、また、学校教育診断の結果から見てもわかるように、高校ではコースごとに雰囲気の違いがあるように思われるという指摘があった。特に本校の核となるコースである幼児教育・福祉コースの立て直しは大きな課題である。内部進学先の城南短大とも連携を深めていきたい。また、本校独自の取り組みをいかに外部（内部の小学校も含む）に発信していくかも考えていく必要がある。

学校教育診断の教員の評価が全体的に低くなっていることに対しても質問をいただいた。特に生徒との関わりに関する設問で低下傾向が見られるので、原因究明と対策が必要である。

最後に、城南短大西川学長に協議のまとめをしていただいた。

- ・総合学園としての強みを生かすために、小学校と中高、中高と短大がさらに連携を強めていく。
- ・新しい学力観や新学習指導要領を見据えた指導という観点でも、学園内の学校間で連携ができないかを考えていく必要がある。
- ・魅力的な取り組みをいかに外部に発信していくかが大きな課題である。